

10月



あの日のあの川 リレー日記 ～第40話～



あの日のあの川
リレーDiary

みなさんはどこの川でどんなことをした記憶がありますか？幼少期や青春時代に体験した川での記憶を日記として掘り起こして語るコーナーです。リレー形式で毎回次の人にバトンをつなぎます。

第40話主人公 芝越貴将

(筑波大学 理工学群 工学システム学類 白川(直) 研究室『川と人』ゼミ)

(□川ガール・■川系男子)

(出身地を流れる川：神奈川県多摩川)

「僕と多摩川」

いつのこと？：小学生時代から現在に至るまで

どこの川？：多摩川

川についてのリレー日記を書くこととなった。神奈川県東部出身である私にとって馴染み深い川と言えば山梨県から神奈川県を通過し東京湾へ注ぐ多摩川である。今回は主に多摩川に纏わるエピソードを綴ろうと思う。

花火大会と多摩川

多摩川と言ってまず思い当たるのは花火大会だろう。あるサイト⁽¹⁾によると人気度第1位で約6000発の花火が打ち上がり約20万人の観客を動員しているようだ。それもそのはず、多摩川の花火大会は世田谷区たまがわ花火大会と川崎市制記念多摩川花火大会の2つの大会が同日に開催されるのが通例となっており、臨時電車が運行されるほど賑わう。一度に2つの花火大会を観ることの出来る場所はなかなか無いのではないかと思われる。私は幼い頃に一度親に連れられて行ったことがあるが、とにかく人混みに溢れ、移動するのが大変だったという印象が強い。しかし、大音量中で迫力のある花火が何発も連続して打ち上げられている光景に圧倒されたことをよく覚えている。

駅と多摩川

私は神奈川県から都内にある学校に通っていた時期があり、その頃は毎日のように人で溢れる田園都市線に揺られ登下校をしていた。二子新地駅を出発した電車が二子玉川駅に向かい二子橋の鉄橋に差し掛かるが、遠くまで続いてゆく多摩川の姿は満員電車の中での唯一の癒やしだったように思う。

その当時大井町線は現在のように溝の口駅まで伸びておらず、二子玉川駅止まりであったため朝のラッシュ時の駅は騒然としていたが、空気の澄んだ日にはプラットホームから富士山が見えるなど、景色の良い駅という一面も持っていた。下校時には駅の近くに住んでいた友人とよく遊んでいたため、駅周辺は大変親しみがある。しかし、東急グループによって再開発が進められ、今ではその面影が失われてしまったことは残念である。

進学後の多摩川

進学後、私は新たな趣味として釣りをするようになった。初夏～秋にかけてのハゼ釣りシーズンでは多摩川の河口付近まで行って釣りをすることがある。

大学生になった今では、大学の宿舍と実家を往復する度に国道246号線の新二子橋を越えている。実家に帰省する時は地元ナンバーの車が多くなり、いよいよ神奈川県に入ったとほっとする瞬間である。多摩川は県境であるのみならず、家と外という心理的な境界線として存在しているように感じる。

卒業を控え、いよいよこの川と接することも少なくなるのかと思うと少し物悲しい気分になってくる。今のうちに川に足を運んで思い出を振り返ってみたいと思った。



多摩川花火大会の様子 ©Cory



河原から見た新二子橋

(1) 花火大会 2018 https://sp.jorudan.co.jp/hanabi/spot_103697.html

(次号は12月号にて岡さんにバトンを託します)